

報告

環境省地方ヒアリングに 意見発表者として出席

5月29日(水) マークス G ホテル仙台において「環境省 中央環境審議会 総合政策部会 環境保全活動活性化専門委員会」の地方ヒアリングが行なわれました。8名の意見発表者の中に MELON も選ばれ、事務局員小林幸司が代表として出席しました。

MELON 事務局からの意見内容は簡単にまとめると次のとおりです。

- ① 環境保全活動を行う必要性や意義をもっとわかりやすく、まめに国民に発信すべき。
- ② 活動の活性化のためには、環境保全の分野を職業として確立し、民間の NGO・NPO といっ

た専門組織の充実を図る必要がある。そのためにも国の制度面でのバックアップが重要。

- ③ 都道府県温暖化防止活動推進センターへの活動支援が全く来ていないので具体策を打ち出して欲しい。

山下栄一環境副大臣が公務のため前半だけで退席されたことと、時間が一人 10 分と短かったことの 2 点が残念でしたが、直接生の意見を聞いてもらえたという意味では有意義な場であったと思います。



「デデッポー、デデッポー」というキジバトのこえが聞こえてきそうです。ビデオでも映画でもないのに、この本のことを考えると、かならずこのこえが耳の奥をくすぐるのです。文字だけのはずなのですが・・・。ものがたりは、わたしたちのさまざまな体験をばらばらにし、ある部分をつなぎ合わせ、ふくらませ、またゆがませたりもします。わすれていた感覚をおもいださせ、またあたかも「触れて感じた」ような気にもさせます。実際感覚だけを追い求めるアミューズメントパークがすべてではなく、本を読んだり聞かせたりするのも人間の想像力にはなくてはならないことなのです。

「ゆきおと木まもりオオカミ」(いぬいとみこ 作いせひでこ絵 理論社)では、今しもなくろうとしている原っぱで、ローラースケートがうまくなりた「ゆきお」がケヤキを守り続けてきた「オオカミ」と出会います。「ぎらぎらひかるみどりいろの目」「しっぽをしゅっとふると」「カシャカシャとかくれていきました。」

オオカミは どんなこえで話すの？

読むと、まるで、わたしたちが見たり聞いたりでもしたような世界にひきこまれます。

あなたは、どんな「オオカミ」のこえで読んであげるのでしょか。あなたが、これから出会う人のこえや話し方をおぼえておくのもいいでしょう。道ばたに見かける猫やカラスが、話し出したらどんな声になるか。そうかんがえたら、歩きながら電話するなんてことはばかばかしくなるかもしれませんね。

